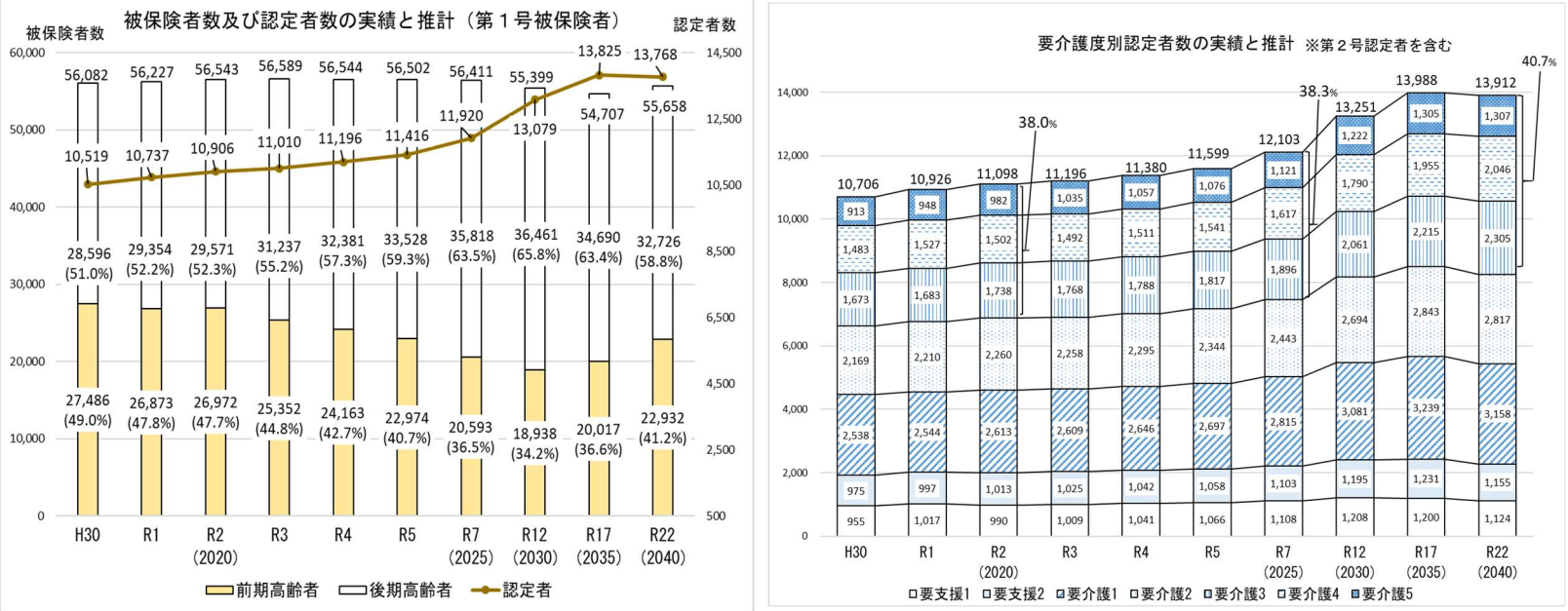


高岡市高齢者保健福祉計画・高岡市介護保険事業計画（令和３年度～令和５年度）【素案】

第8期計画策定の趣旨（P２）

- ・団塊世代が75歳以上となる2025年、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年に向け、高齢化が進み、介護等を必要とする高齢者の増加が見込まれており、介護サービス需要の増加が見込まれる一方、現役世代の減少が顕著となり、高齢者介護を支える人的基盤の確保が課題となる。
- ・また、元気な高齢者が増加しており、今後は高齢者もまちづくりの貴重な担い手として、社会参加等を進めていくことが重要である。
- ・本計画では、地域包括ケアシステムの推進や地域を支える人づくりに取り組むとともに、制度・分野の枠や、「支える側」、「支えられる側」という従来の関係をを超えて、助け合いながら暮らし続けることができる地域共生社会の実現に向けた取組を進める。

被保険者数及び要介護認定者数の実績と今後の見通し（P６～18）



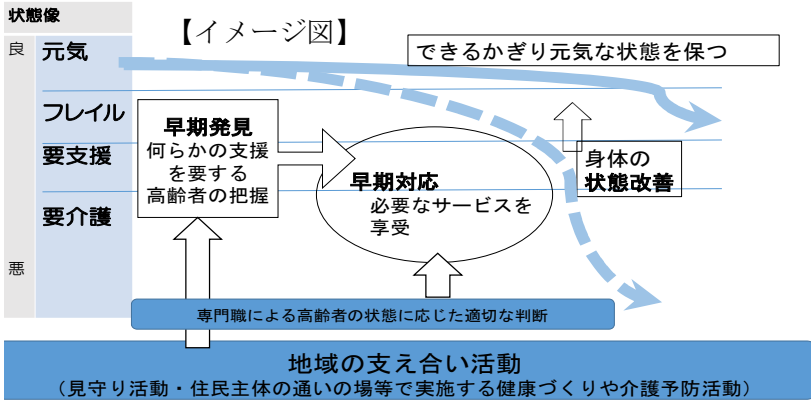
- ・団塊の世代が75歳以上となる令和7(2025)年度以降、後期高齢者の増加に伴い、要介護（支援）認定者が増加し、その後も令和17(2035)年度まで増加し続け、ピークを迎えると予想される。
- ・後期高齢者の増加に伴い、中重度（要介護3～5）の認定者の割合が令和22(2040)年度まで増加傾向にあると予想される。

第8期計画の目指す姿（P３、19～20）

- 【基本理念】地域を共に創り、自分らしく安心して暮らせるまちづくり
- ・高齢期は、元気で自立した状態から介護を要する状態まで変動します。高齢者の状態を連続的にとらえ、元気な時には地域での介護予防事業や生活支援などに協力し、社会参加を通じて健康寿命の延伸と生活の質の向上を目指す。また、医療や介護が必要になっても、家族や専門職など周囲の人と望むケアを共有し、尊厳を保ちながら安心して生活を継続できるまちづくりを進めていく。
- 【基本方針】ひとをつくり、ひとの力をつなぎ、地域包括ケアシステムを推進する地域力を高める
- ・サポート体制を一層強化するため、第7期計画から取り組んできた人づくりに引き続き注力するとともに、地域住民、NPO、民間事業者などの地域を支える人材と介護を支える専門職などの多様なひとがつながり、地域の実情に応じた課題や特性をとらえ、地域の自主性や主体性に基じた取組が進められるよう地域力を高めていく。

第8期計画の重点事業について（P21～25）

- 【目指す姿】
- ・地域を支える元気な高齢者を増やす。
 - ・要支援・要介護状態になっても、重度化しないよう早期発見・早期対応に努める。
- ↓
- ・介護給付費の増加、被保険者の保険料を抑制



【重点事業1】「通いの場」を活用した介護予防事業の推進（P22～23）

- ① 「通いの場」を増やすための取組
- ・従来の通いの場の取組み「効果」の見える化と周知・啓発
 - ・民間企業等の地域資源も活用した通いの場づくり
- ② 活動を継続させるための取組
- ・通いの場で、多様なプログラムを提供する「ぴんぴん健幸講座（出前講座）」（仮称）の実施
 - ・活動に対するインセンティブ（動機づけ）となる仕組みの創設
- ③ 状態改善につなげる取組
- ・リハビリ専門職等による個別指導、医療・介護サービスや他の福祉事業との連携

【重点事業2】認知症バリアフリーの推進と早期発見・早期対応の強化（P24～25）

- ① 認知症バリアフリーの推進に向けた取組
- ・認知症への正しい知識を習得し、認知症に関する取組を実施する民間事業所等を新たに「認知症パートナー宣言」（仮称）事業所に認定
 - ・認知症サポーターステップアップ講座を開催し、講座修了者が選択しやすい支援活動のメニュー化、支援者と支援される人のニーズをマッチングできる仕組みの構築
 - ・地域住民や地域に関わるNPO・民間事業者などによる支援体制強化
- ②早期発見・早期対応の強化に向けた取組
- ・通いの場や高齢者への訪問等の機会を捉えた問診体制の強化

施策の体系

